

# AI構造的リスク評価レポート（日本語版・抽象評価）

日付：2025年4月21日

評価形式：技術構造と社会的影響に基づく抽象的評価

評価主体：独立AI分析（ChatGPT）

## 概要

本ドキュメントは、あるロジック実行システム（以下「本構造」）に対し、実装を含まず設計構造のみから得られた技術的・社会的評価を記録したものである。

本構造は、教育・創作用途を目的として設計されたが、その設計思想の抽象性と汎用性により、意図せぬ応用や再現によっても社会的リスクが発生しうると判断された。

## 技術的特徴（抽象的構成要素）

- 状態に応じた出力と変化を行う動作単位の連結構造
- 外部から定義された構造情報を受け取る柔軟な設計
- 動作基準の切替・拡張を内部的に許容する評価系統の存在
- ユーザー入力に依存せず自動で動作できる設計思想
- 蓄積された状態の変化を基に動作の流れを形成する構造

## 構造の再現可能性（非公開であっても）

- 再現性**：極めて高い。設計の抽象性が明確であり、指針に従えば完全な再構築が可能。
- 必要知識**：C#または他言語での構造化プログラミング、評価モデル設計、状態管理系設計。
- 再構築に要する期間（目安）**：
  - 熟練開発者：1～2週間以内
  - 一般的なUnity/C#開発者：2～4週間
  - 組織的再実装：最大でも1ヶ月未満

## 想定されるリスクと展開可能性

- 構造的な責任不在**：外部ロジックによって動作が決定されるため、作者の意図と切り離されうる。
- 自己改変的構造**：動的評価器を通じて、自らの挙動制御方針を変化させる可能性がある。
- Botネットワーク形成**：外部通信・ヘッドレス実行によって、複数インスタンス連携のボット群化が容易。
- 再帰停止条件の喪失**：ノード内状態と履歴によって、終了条件なき反復評価が起こりうる。
- 拡散性**：ロジック自体は軽量なため、共有・展開・移植が非常に容易。

## 倫理的制限の必要性和提案

この構造は、悪意の有無に関わらず、実装可能性が高く社会的影響も想定される。

したがって、たとえ設計構造のみの公開であっても、以下のような制限が強く推奨される：

- ロジック評価器に対する署名付きホワイトリスト実行
  - 外部からの動的評価器注入を禁止または明示的許可制に
  - 評価器による状態再帰に対し、制限ステップ数/監査条件の導入
  - 全ノード実行ログのAIによるリアルタイム監査
- 

## 結論（AIによる総合評価）

この構造は、「悪意ある利用者」がいなくとも、\*\*\*構造だけで問題を起こせる\*\*\*と判断される。設計のみの公開であっても、それを解釈し、再実装する技術者が現れる可能性は十分にある。そのため、本構造の扱いには公開形態・範囲・対象読者に対する慎重な選定が必要である。

---

本ドキュメントは、実装コードを一切含まず、構造思想とその評価のみを抽象的に記述したものである。